

決算審査特別委員会視察報告書

【令和7年10月17日】

視察日 令和7年10月17日（金）

視察地及び班編成

第1班

- ・視察地 高齢者あんしん相談センター富坂／音羽中学校（特別支援教室拠点校の増設）
- ・班長 宮崎 こうき 委員
- ・班員 白石 英行 委員、石沢 のりゆき 委員、田中 香澄 委員、浅田 保雄 委員、宮野 ゆみこ 委員、高山 泰三 副議長

第2班

- ・視察地 窪町東公園／AQUABASE
- ・班長 宮本 伸一 委員
- ・班員 浅川 のぼる 委員長、のぐち けんたろう 委員、板倉 美千代 副委員長、小林 れい子 委員、たかはま なおき 委員

第3班

- ・視察地 湯島小学校（教室増設対策）／根津小前無電柱化工事
- ・班長 依田 翼 委員
- ・班員 名取 颯一 委員、吉村 美紀 委員、金子 てるよし 委員、沢田 けいじ 委員、山本 一仁 委員、

視察報告内容

第1班

1 高齢者あんしん相談センター富坂

文京白山の郷の大規模改修に伴い一時移転として令和7年4月1日に開設された「高齢者あんしん相談センター富坂」を視察した。

この富坂地域は13,800名ほどの高齢者が住んでおり、その高齢者の方々が「いつまでも健やかに安心した生活」ができるための地域包括ケアシステムの中心としても機能している。施設が入っているビルの1階には駐輪場があり足を運びやすい作りにもなっており、外に出て見守り訪問を行うスタッフ含め、6名程度が在駐している。今後は高齢者増加に伴いそれに合わせた人数配置が望まれる。重層的支援が求められる中で「つながる相談窓口」の設置もされており、運営は社会福祉士、保健師、看護師、主任ケアマネジャーなどのチームで相談しながら進められている。

訪れた方の相談対応、高齢者のコミュニケーション向上のための集まりどころのご案内、見守り事業では3名の見守り訪問員による訪問の他に、1人暮らし高齢者の近隣に住んでいる方、民生委員、宅配業者、マンションの管理人など様々な分野の方達とも連携を取り、1人暮らし高齢者の異変をすぐに察知できるようになっている。

文京白山の郷の併設時はキャパシティーに課題があったが現在は解消されている。今後大規模改修が終了し文京白山の郷に戻られた際に、キャパシティーを検討し再整備されることを望む。

2 音羽中学校（特別支援教室拠点校の増設）

文京区全体の地域バランスを考慮し、区の北東部に拠点校である文林中学校、東部の本郷台中学校、西部にこの音羽中学校を拠点校として令和7年4月に開設された。

5階にある特別支援教室では火曜日と水曜日の週2日間、2年生が1人、3年生が5人の計6人が登録利用しており、今後、特別支援教室を希望する人数が増えた場合に備えて、3階と4階にも予備の部屋が準備されている。

指導面については、生徒一人一人の個別指導計画に沿って細かいところにまで配慮して学習を進められており、柔軟に対応されていること、その成果も上がっていることが確認された。職員室も併設されており、教員2名、講師1名、専門員1名の計4名で連携して生徒の指導をしている。専門員は教室に出向き、生徒に関する報告、記録、提案等を行う。教員及び講師が巡回指導のため他校に出ており、特別支援教室の専門員が1人で、教室を巡回していて職員室が誰もいなくなった時の電話対応のためにも、留守番電話機能がついた電話機の導入が望まれる。

第2班

1 窪町東公園

窪町東公園は、都下水道局による千川増強幹線人孔設置工事により閉鎖されていたが、復旧後の再整備に向け令和4年に3回の意見交換会が行われ、増強工事終了後に公園整備に着工、令和6年9月に完成した。

小さい子どもたちが遊ぶ「ちびっこ広場」と、祭りや防災訓練などに活用できる「ふれあい広場」があり、視察時も近所の保育園児たちの外遊びに使われていた。

地元住民の強い要望により、窪町東公園の桜やけやきなど18本の樹木が、都の砂町水再生センターに移植されていたが、枯れたりしたため、戻すことができなかった。

意見交換会で出された声を取り入れ、桜や常緑樹を植樹し、藤棚のパーゴラを設置。現在は成長途中のため、夏場はパーゴラによしずをつけて日陰をつくる工夫をしている。

防災面で、かまどベンチを3基設置してあるが、マンホールトイレがない（今後「つどいの広場」の再整備にて検討）。地面には用途に合わせて透水性のゴムチップ、ダスト、ブロック舗装が施されており、地中には透水トレンチが設置され大雨にも対応。防犯カメラも3基設置されていることを確認した。

親しまれていた汽車型の遊具が再設置され、インクルーシブのぶらんこも導入されたが、ぶらんこの位置について「車椅子の子どもたちの動線を考慮して、入り口に近い位置に設置すべきでは」という意見が上がった。

2 AQUABASE

AQUABASE(アクアベース)は、中高生世代の区民が放課後に安心して自由に過ごせる居場所事業である。「学校や家とは違う第三の居場所」として、友達とおしゃべりや自習、趣味など、好きなことをして自由に過ごすことができる環境が提供されており、自主的な活動を応援する場が運営されている。

インキュベーションオフィス「GROWTH文京飯田橋」に関連したスタートアップである株式会社イノカにご協力いただいて、社会的ニーズの高い中高生専用の居場所を令和7年5月に開設するに至った。

同社は、海をはじめとした水域の自然環境を、水槽などを用いて陸地に再現する事業を展開して

おり、大きな水槽がいくつもある空間でゆったりと過ごすことができる場が提供されていることを確認した。開館時間は、水・金曜の15時から19時、土曜の13時から18時となっている。初めて利用する際には利用登録が必要となっており、生徒証等により身元確認できる点は安心につながる。

現在、中学生28人、高校生10人の38名が登録されており、平均5,6名が利用しているとのことであった。せっかくのいい空間であるので、より多くの生徒に足を運んでもらうために、一層の周知をはかられたい。また、こうした居場所を地域偏在なく拡充することを要望する。

第 3 班

1 湯島小学校（教室増設対策）

湯島小学校の増築校舎は児童数の増加に対応するため校庭の西側に建築した。建築面積は402平方メートルあるが、遊具などを移動することで校庭の面積の減少を最小限に抑えた。減った面積は50平方メートルほどという。斜めながら直線で50メートルも取れている。

建物は重量鉄骨造で、工期は13か月で済んだ。将来的には小学校と同じ建物に入っている高齢者在宅サービスセンターとアカデミー湯島が建て替え後の湯島総合センターに移転する予定だ。現在のアカデミー施設等の跡地は湯島小の教室に活用可能なため、増築校舎はそれまでの「つなぎ」の施設という見方もできる。

建物は3階建てで3年生と4年生の普通教室のほか、アクティや育成室なども入っている。一見して廊下は広く空調や遮音性なども十分な印象だった。

この増築校舎のような重量鉄骨造の建物は、鉄筋コンクリート造と比べて耐用年数は短いものの工期や工費の点で強みがある。東邦音大の跡地に建築予定の仮校舎の工法を検討する際にも大いに参考になると考えられる。

2 根津小前無電柱化工事

区内初の同工事の成果を視察した。設計は令和3年、竣工は同6年。緊急輸送道路である不忍通り（都道第437号）から根津小学校避難所までの短区間（68.3m）において電柱8本を撤去し電線共同溝を設置。事業総額約2億3千万円のうち4分の1は都・国の補助を受けた。

車道部に埋設した特殊部2か所と道路区域に設置した地上機器1か所のうち、特殊部は高さ1.6mの箱型でマンホール蓋を開け梯子で降りて作業が可能、地上機器は沿道マンション敷地に面する道路区域に設置した。

施工時の課題は路幅の狭さと安全確保。クレーンオペレーターが現地視察し設計に反映、不忍通り側交差点と校門前に誘導員を立て、登下校時間帯の車両搬入出を避けたうえ、昼寝の時間は休憩、幼稚園・小学校の行事日は休工とし、沿道住民に毎週工程表を配布し協力を求めた。

本件は緊急道路障害物除去路線に限り施工したが、支援物資の輸送や避難所ごみ・し尿等の収集の実効性を確保するには運搬経路となる学校東側道路の施工も視野に入れた検討をお願いしたい。

また緊急輸送道路である不忍通りの拡幅・無電柱化工事については都との情報共有を進めてほしい。